

# 1歳児 A 児 事例①

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無			
淀屋橋 太郎	男			令和6年度 ・泣いて要求を伝えることが少ない。 令和7年度 ・園では感情の表出が少ない。 ・感覚に敏感さが見られる。	身体障害者手帳 ( 手帳 級) 療育手帳 A ・ B1 ・ B2 精神障害者保健福祉手帳 1級・2級・3級 特別児童扶養手当 1級・2級			
		入所年月日						
		R6.4.1						
医療・相談機関		関係機関からの支援や情報						
保護者の願い		支援の目標・内容						
令和7年度 ・機嫌よく過ごしてほしい。		令和7年度 ・保育者に、気持ちを表し受け止めてもらえる心地よさを感じることができるよう、思いを代弁したり共感したりして応答的に関わる。 ・身の回りのいろいろなものに興味や関心をもてるように、子どもの姿を見取りながら環境を整えとともに、丁寧に関わりながら、保育者間で姿を共有する。						
この計画内容を確認しました。		令和	年	月	日	保護者名		
(就学前確認欄)		この支援計画書を就学先小学校に引継ぎすることに同意します。		令和	年	月	日	保護者名

1歳児A児 事例①

( 4月 ~ 5月 )

( 保育園 )

児童名 淀屋橋 太郎		家庭の様子：進級しても、家庭での様子に大きな変化は見られないが、登園時、保護者との別れ際に少し泣くようになったことが、以前と違う姿だと母親は感じている。母親がトイレに行くときについてくることがある。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 1 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入児9名が加わり、クラス全体が落ち着かない中ではあるが、大きな姿の変化は見られない。</li> <li>・おむつ交換をするときは、とても嫌がる。</li> <li>・0歳児からの入園で保育経験1年が経つが、感情の表出が少ない。</li> <li>・玩具への興味も薄く、自分から手を出すことが少ない。</li> <li>・0歳児の担任がもち上がりなので、その担任が呼びかけたときは、少し笑顔を見せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者と一緒にトイレに行き、おむつを替える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おむつを交換すると気持ちよくなることを感じることができるよう、おむつを交換するときに見せる感情の原因を担当間で探り、特定の保育者が関わるようにする。</li> <li>・家庭ではトイレに興味が出てきているようなので、2歳児がトイレに行く姿を見せるなどして、トイレでおむつを交換することを誘う。</li> <li>・おむつ交換を嫌がる時は無理強いせず、入眠中にそっと交換することを、保育者間で共通認識する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おむつ交換だけでなく、衣服の着脱も嫌がることもある。</li> <li>・2歳児がトイレで排泄する様子を、自分から見に行くことが増える。</li> <li>・入眠中の交換であっても、ぐっすり寝入っていないときは、目覚めることがある。</li> <li>・もち上がり以外の担任や応援の保育者に、ふれあい遊びで関わられることは嫌がる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感情の表出が少ないにもかかわらず、おむつ交換時だけでなく、着脱時にも嫌がる姿が見られるようになってきたのは、触覚の敏感さからと考えられる。</li> <li>・1歳児クラスのトイレは2歳児クラスと共有の場所でもあるので、2歳児がトイレに行く様子を知らせることでトイレへの興味は出てきた。</li> <li>・おむつ交換にこだわらず、別の手立てを考える。</li> <li>・0歳児のときにも、ふれあい遊びはしてきたが、感情を表出することは少なかった。しかし、もち上がりの担任であれば嫌がることはないので、その保育者との関わりの中で、触れられることの心地よさを知らせていく。</li> </ul>	
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日			保護者名	

1歳児A児 事例①

児童名 淀屋橋 太郎		家庭の様子：登園時に泣く姿はなくなったが、家庭でも、おむつ交換や衣服の着脱を嫌がる姿が増えてきている。母親がトイレに行くことを知らせると、笑顔でついてくる。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 1 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>おむつ交換だけでなく、衣服の着脱時にも嫌がることもあり、入眠中の交換でも目覚めることがある。</li> <li>2歳児がトイレで排泄する様子を見ながら、「あっ！あっ！」と指を指して、保育者に知らせようとする姿がある。</li> <li>ふれあい遊びでは、もち上がりの担任との関わりであれば嫌がることはない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>便器に座ってみようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>触覚の敏感さがあることを保育者間で共通理解したうえで、手立てを考える。</li> <li>便器に座ってみようと思えるように、トイレに興味を示して保育者を呼んでいるときに、「〇ちゃんも行ってみる？」「ここ（便器）に座ってみる？」と誘いかける。</li> <li>誘いかける際は、可能な限りもち上がりの担任が関わるように、担任間で連携する。</li> <li>保護者にも「家でもしてみよう」と思ってもらえるように、園での様子を細やかに知らせる。</li> <li>保護者が頑張りすぎることで、子どもにとって負担になることも踏まえ、焦らずゆっくりと進めていくことを、保育者自身が心がける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トイレに入ることは嫌がらない。</li> <li>毎回ではないものの、気持ちが向いたときには、自分でズボンとおむつを脱ごうとして、便器に座ることもある。</li> <li>もち上がりの担任であれば、ズボンとおむつを脱ぐときに手伝っても嫌がらなくなる。</li> <li>他の担任には拒むことが多く、笑顔が少ない。</li> <li>母親がトイレに行くときには、一緒におまる（ポット）に座るようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おむつを換えることを嫌がらなくする手立てではなく、興味が出てくる姿に着目して支援したことで、一定ねらいは達成した。</li> <li>もち上がりの担任の関わり方を共有し、他の担任が関わる時間を少しずつ増やしていくようにする。</li> <li>家でポット式のおまるを準備してもらえ、家庭での姿を保護者から聞かせてもらえる機会が増える。</li> <li>家庭とともに手立てを行うことにより、スモールステップで確実に達成できることにつながり、困りを軽減させることができると分かった。</li> </ul>	
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日			保護者名	

1歳児A児 事例①

児童名 淀屋橋 太郎		家庭の様子：トイレに誘ったときの着脱は嫌がるのが減り、おまる（ポット）に座ることを喜んでいる。母親に「一緒だね～」と言われると笑顔で「(いっ)しょ～」と言うこともある。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 1 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレに入ることは嫌がらず、毎回ではないものの、気持ちが向いたときには、自分でズボンとおむつを脱いで、便器に座ることもある。</li> <li>・もち上がりの担任であれば、ズボンとおむつを脱ぐときに手伝っても嫌がらないが、他の担任だと拒む姿は、まだ見られる。他の生活や遊びの場面においても、他の担任には、笑顔を見せることが少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の担任と一緒に、トイレに行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もち上がりではない他の担任との関係性をつくる機会として、トイレへの促しだけでなく、生活や遊びのいろいろな場面で安心して気持ちを出すことができるように、要求や欲求をしっかりと受け止め、笑顔で対話する。</li> <li>・トイレに誘ったときには、排泄が心地よいものであることを感じられるように、ゆったりとした気持ちで関わることを心がける。</li> <li>・互いに子どもの姿の情報交換と共有を図り、保育者間での連携を密にする。</li> </ul>			
この計画内容を確認しました。		令和	年	月	日	保護者名

1歳児 A児 事例① ポイント挿入

在園期間中の、立案する年度から、この1枚に年度ごとに追記する。

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
淀屋橋 太郎	男	入所年月日		令和6年度 ・泣いて要求を伝えることが少ない。 令和7年度 ・園では感情の表出が少ない。 ・感覚に敏感さが見られる。	身体障害者手帳 ( ) 手帳 ( ) 級 療育手帳 A ・ B1 ・ B2 精神障害者保健福祉手帳 1級・2級・3級 特別児童扶養手当 1級・2級
		R6.4.1			
<div data-bbox="56 383 716 598" data-label="Text"> <p>施設内での検討時や、保護者との支援会議の際にも、氏名記入のまま行うことで、該当児童以外の計画と混同することを防ぐことができる。但し、個人情報情報の取り扱い及び管理には特段の注意を払う。</p> </div> <div data-bbox="1052 502 1612 686" data-label="Text"> <p>診断名等がなくても、特性として見られる姿を年度ごとに記載しておくこと、共通認識が図られ子どもも理解につながる。</p> </div> <div data-bbox="1702 502 2172 790" data-label="Text"> <p>手帳を取得していない場合は、この欄の内容は削除せず、手帳を取得した時点で、該当箇所には○や必要内容を記載する。印字されていない様式の場合は、取得した時点で記載する。</p> </div> <div data-bbox="134 790 660 997" data-label="Text"> <p>保護者から聞き取った内容を、そのまま書く。保護者との共有が難しい段階であれば、普段の会話から汲み取れる内容を記載する。</p> </div> <div data-bbox="705 742 1680 949" data-label="Text"> <p>「保護者の願い」を汲み取りながら、対象児の育ちを様々な情報から総合的に判断する中で「支援の目標・内容」を決めていくので、必ずしも「保護者の願い」一つ一つに対しての支援が必要なわけではない。また、「保護者の願い」とは違う視点での「支援の目標・内容」を考えていくことが必要な場合もある。</p> </div>					
支援の目標・内容					
令和7年度 ・機嫌よく過ごしてほしい。	令和7年度 ・保育者に、気持ちを表し受け止めてもらえる心地よさを感じることができるよう、思いを代弁したり共感したりして応答的に関わる。 ・身の回りのいろいろなものに興味や関心をもてるように、子どもの姿を見取りながら環境を整えるとともに、丁寧に関わりながら、保育者間で姿を共有する。				
		就学前教育カリキュラム P38 「0・1歳児カリキュラム」 P42 「1歳児カリキュラム」 参照		支援の内容は教育的意図をもった働きかけを具体的に記載する。	
この計画内容を確認しました。	令和	年	月	日	保護者名

# 1歳児A児 事例① (ポイント挿入)

4月

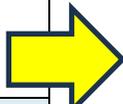
家庭での子どもの様子は、支援につながる大切な情報なので、必ず記載する。保護者との会話で聞いたことであっても、大切な情報の1つである。施設での子どもの姿とリンクしていると、保護者と一緒に手立てを共有することができる。

児童名	淀屋橋 太郎	家庭の様子：進級しても、家庭での様子が大きな変化は見られないが、登園時、保護者との別れ際に少し泣くようになったことが、以前と違う姿だと母親は感じている。母親がトイレに行くときについてくることがある。	園長	担任(作成者)
-----	--------	---	----	---------

子どもの姿はプラスの姿も含めて具体的に書く。

次のサイクルまでに達成できそうな「ねらい」をスモールステップで立てる。評価しやすいように、言い切りの文章にする。

支援・手立てを行った結果、対象児にどのような状況が見えているのかを具体的に記載する。



項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
----	------	-----	------------	--------	----------

生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入児9名が加わり、クラス全体が落ち着かない中ではあるが、大きな姿の変化は見られない。</li> <li>・<u>おむつ交換をするときは、とても嫌がる。</u></li> <li>・0歳児からの入園で保育経験1年が経つが、感情の表出が少ない。</li> <li>・玩具への興味も薄く、自分から手を出すことが少ない。</li> <li>・0歳児の担任がもち上がりなので、その担任が呼びかけたときは、少し笑顔を見せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者と一緒にトイレに行き、おむつを替える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おむつを交換すると気持ちよくなることを感じることができるよう、おむつを交換するときに見せる感情の原因を担当間で探り、特定の保育者が関わるようにする。</li> <li>・家庭ではトイレに興味が出てきているようなので、2歳児がトイレに行く姿を見せるなどして、トイレでおむつを交換することを誘う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おむつ交換だけでなく、衣服の着脱も嫌がることもある。</li> <li>・2歳児がトイレで排泄する様子を、自分から見に行くことが増える。</li> <li>・入眠中の交換であっても、ぐっすり寝入っていないときは、目覚めることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感情の表出が少ないにもかかわらず、おむつ交換時だけでなく、着脱時にも嫌がる姿が見られるようになってきたのは、触覚の敏感さからと考えられる。</li> <li>・1歳児クラスのトイレは2歳児クラスと共有の場所でもあるので、2歳児がトイレに行く様子を知らせることでトイレへの興味は出てきた。</li> <li>・おむつ交換にこだわらず、別の手立てを考える。</li> </ul>
----	--	---	---	---	---

下線部分の姿を、「なぜ？」の視点から見直すことが子ども理解につながり、アセスメントの方法を探っていくことができる。

- 触れられるのが嫌
- もっと遊びたい
- 決まった先生でないと嫌

0~2歳児は、発達が著しく個人差も大きい時期であることを踏まえ、ねらいは1つでも良い。乳児期には、基本的生活習慣の面に視点を置き、生活における困りを軽減できると良い。

「具体的な支援・手立て」は、教育的意図をもった働きかけを具体的に記載する。

否定的な表現より、肯定的表現になる文章のほうが望ましい。

この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。

「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」がどうであったか、ということの評価して書く。

「児童の姿」からくる困りを見極めて「ねらい」を立て、「ねらい」に応じた必要な「項目」を選ぶ。

令和 年 月 日

下線部分の姿は、生活面での施設での姿と一致している。

「ねらい」が達成できたのか、できなかったのか。できなかったのであれば、その原因は何か、次にどのように改善していくのか、ということを必ず記載する。

前月からのつながり

→

<p>児童 淀屋橋 太郎</p>	<p>家庭の様子：登園時に泣く姿はなくなったが、家庭でも、おむつ交換や衣服の着脱を嫌がる姿が増えてきている。母親がトイレに行くことを知らせると、笑顔でついてくる。</p>				
<p>項目</p>	<p>児童の姿</p>	<p>ねらい</p>	<p>具体的な支援・手立て</p>	<p>具体的な状況</p>	<p>評価・今後の課題</p>
<p>生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おむつ交換だけでなく、衣服の着脱時にも嫌がることもあり、入眠中の交換でも目覚めることがある。</li> <li>2歳児がトイレで排泄する様子を見ながら、「あっ！あっ！」と指を指して、保育者に知らせよつとする姿がある。</li> <li>ふれあい遊びでは、もち上がりの担任との関わりであれば嫌がることはない。</li> </ul> <p>前月に否定的表現だった文章を、肯定的表現にして記載。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>便器に座ってみようとする。</li> </ul> <p>困りの部分に視点を置くのではなく、興味を示している姿に視点を置く。</p> <p>成長と課題を「児童の姿」にきちんと書くことで、保護者とともに、成長を確認し、次の課題に向けた支援を考えることができる。</p> <p>生活面において見えている姿を家庭と共有し、家庭での状況を聞きながら、ともに考え進めていく。</p> <p>就学前教育カリキュラム P42「1歳児カリキュラム」 &lt;家庭との連携&gt;参照</p>	<p>前月の「評価・今後の課題」に記載した内容を、次月の「具体的な支援・手立て」欄に具体的に記載する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>触覚の敏感さがあることを保育者間で共通理解したうえで、手立てを考える。</li> <li>便器に座ってみようと思えるように、トイレに興味を示して保育者を呼んでいるときに、「〇ちゃんも行ってみる?」「ここ(便器)に座ってみる?」と誘いかける。</li> <li>誘いかける際は、可能な限りもち上がりの担任が関わるように、担任間で連携する。</li> <li>保護者にも「家でもしてみよう」と思ってもらえるように、園での様子を細やかに知らせる。</li> <li>保護者が頑張りすぎることで、子どもにとって負担になることも踏まえ、焦らずゆっくりと進めていくことを、保育者自身が心がける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トイレに入ることは嫌がらない。</li> <li>毎回ではないものの、気持ちが向いたときには、自分でズボンとおむつを脱ごうとして、便器に座ることもある。</li> <li>もち上がりの担任であれば、ズボンとおむつを脱ぐときに手伝っても嫌がらなくなる。</li> <li>他の担任には拒むことが多く、笑顔が少ない。</li> <li>母親がトイレに行くときには、一緒におまる(ポット)に座るようになる。</li> </ul> <p>家庭とともに進めている支援であれば、家庭での状況も記載しておく。</p> <p>「具体的な支援・手立て」を行った中での子どもの姿を具体的に記載する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おむつ交換することを嫌がらなくする手立てではなく、興味が出てくる姿に着目して支援したことで、一定ねらいは達成した。</li> <li>「ねらいは達成した」と記載する。</li> <li>もち上がりの担任の関わり方を共有し、他の担任が関わるタイミングを少しずつ増やしていくようにする。</li> <li>家でポット式のおまるを準備してもらえ、家庭での姿を保護者から聞かせてもらえる機会が増える。</li> <li>家庭とともに手立てを行うことにより、スモールステップで確実に達成できることにつながり、困りを軽減させることができると分かった。</li> <li>次の月につなげることを意識して、「評価・今後の課題」を記載する。</li> </ul>

この計画内容を確認しました。

令和 年 月 日

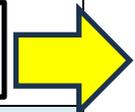
保護者名

児童 淀屋橋 太郎	家庭の様子：トイレに誘ったときの着脱は嫌がるのが減り、おまる（ポット）に座ることを喜んでいる。母親に「一緒だね～」と言われると笑顔で「(いっ)しょ～」と言うこともある。	園長	担任(作成者)
--------------	--	----	---------



成長と課題を「児童の姿」にきちんと書くことで、保護者とともに、成長を確認し、次の課題に向けた支援を考えることができる。

支援や手立ての内容は具体的に書くことで、担任間はもちろん、補助等でクラスに入る保育者とも共有でき、どの職員であっても同じ支援をすることができる。



項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
----	------	-----	------------	--------	----------

生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレに入るとは嫌がらず、毎回ではないものの、気持ちが向いたときには、自分でズボンとおむつを脱いで、便器に座ることもある。</li> <li>・もち上がりの担任であれば、ズボンとおむつを脱ぐときに手伝っても嫌がらないが、<u>他の担任だと拒む姿は、まだ見られる。</u>他の生活や遊びの場面においても、<u>他の担任には、笑顔を見せることが少ない。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の担任と一緒に、トイレに行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もち上がりではない他の担任との関係性をつくる機会として、トイレへの促しだけでなく、生活や遊びのいろいろな場面で安心して気持ちを出すことができるように、要求や欲求をしっかりと受け止め、笑顔で対話する。</li> <li>・トイレに誘ったときには、排泄が心地よいものであると感じられるように、ゆったりとした気持ちで関わることを心がける。</li> <li>・互いに子どもの姿の情報交換と共有を図り、保育者間での連携を密にする。</li> </ul>	<p>「具体的な支援・手立て」を行った中での子どもの姿を具体的に記載する。</p> <p>この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。</p>	<p>「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」が子どもの姿やねらいに合っていたのかどうかを、評価として記載する。上手くいったことも評価としてきちんと記載しておくことが重要。</p> <p>「ねらい」が達成できたのか、できなかったのか。できなかったのであれば、その原因は何か、次にどのように改善していくのか、ということを必ず記載する。</p> <p>具体的な評価をしておくことで、次月につなげていける。</p>
----	---	---	--	---	--

前月の「具体的な状況」に記載した姿と同じ内容を、より具体的に書くことで、つながりのある計画になる。

スモールステップで、具体的なねらいを立てる。

就学前教育カリキュラム P38  
「0.1歳児カリキュラム」参照

前月の「評価・今後の課題」に記載した内容を、次月の「具体的な支援・手立て」欄に具体的に記載する。